

平成13年7月30日

各関係機関長 様

高知県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予察特殊報第1号を送付します。

平成13年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成13年7月30日

高知県病害虫防除所

1. 病害虫名 えそ斑点病 (Melon necrotic spot virus: MNSV)

2. 発生物物 スイカ (品種: 金時 台木: かちどき)

3. 発生状況等

| 発生場所 | 初発生年月 | 発生確認の経過と発生状況 |
|------|-------------|--|
| 夜須町 | 平成 8年 4月 | 交配前頃に2棟のハウスで生長点に近い葉およびその葉柄にえそが現れている株が発見された。病害虫防除所へ診断依頼があり、電子顕微鏡で検鏡したところ、径約30nmの球形粒子が多数観察され、またMNSV抗血清に反応したことから本病害であると考えられた。平成8年6月末時点で84aのハウスで発生を確認した。 その後も現在まで継続して発生が見られている。 |
| 奈半利町 | 平成13年 5月 | 収穫時に1棟(20a)のハウスで果肉の異常が発見された。病害虫防除所に診断依頼があり、電子顕微鏡による検鏡結果と、高知県農業技術センターに依頼したウリ科作物への接種試験結果より本病害と確認。ハウス全体で発生。 |
| 春野町 | 平成13年 5月 | 収穫前の時期に1棟(10a)のハウスで果肉の異常が発見され、奈半利町で発生したMNSVと同様の診断方法により本病害であることを確認。発生確認は1果実のみ。 |

4. 病徴と被害

果実では果肉は水浸状となり、空洞を伴う場合がある。内部果皮部分に黄褐色壊死塊が見られる場合がある。果柄にえそ斑点が生じ、果実表面に凹凸が見られることがある。

葉には退緑色斑点、後に壊死斑点、葉脈壊死が生じ、葉柄、巻きひげにも壊死が見られる。

5. 病原ウイルスの諸性質

Carmovirus属に属する、直径30nm、球状のウイルスである。

汁液接種でスイカ、ユウガオには容易に感染する。またツルナや、カボチャ(はやと)、メロン(サンライズ)、キュウリ(久留米落合H)、カボチャ(新土佐)などの特定品種に感染する。

本ウイルスはこれまでメロンで報告されている系統とは異なる系統であると思われる。

また鳥取県でも本病害の発生が確認されている。

6．伝染源と伝染方法

第一次伝染源は汚染土壌、汚染種子、汚染植物である。土壌伝染は土壌中に生息するOlpidium菌によって媒介される。種子伝染は種子に付着したウイルス粒子が土壌中に生息しているOlpidium菌に付着して見かけ上の種子伝染が起こる。発病株からは接触によって伝染する。

7．防除対策

本病害が疑われる場合は病害虫防除所等にウイルス診断を依頼し、本病害であるかどうかを確認する。本病害である場合は以下の対策をとる。

- (1) 蒸気、臭化メチル、クロルピクリン等により土壌消毒を行う。
- (2) 種子は無病のものを用いる。
- (3) 一度使用した資材は消毒する。
- (4) 日常の管理作業では接触伝染に注意する。
- (5) 収穫後の果実、残さは埋没または焼却処分を行う。